



発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045 (661) 0166

就任の挨拶

醜上更に醜一層!!

会長 志村 慎吾

去る四月十九日日本連合会総会の決議により、はからずも、現執行部がそのまま続行、重任を命ぜられ、組織の厳命で辞退でき得ず、「醜上更に醜一層」を重ねて未熟者共達がこの重責を、ここに三度担当する運びと相成り慚顔を感むもので恐縮千万の至りと存じております。一徹者、加えて盲聾瘖啞の野干ゆえよろしく旧に倍してのご法愛と、ご鞭撻、ご教導とを乞い奉る次第であります。

共に、その本を努めん、総会では、役員改選の議案が提出されましたところ、「昨年度は横浜市積尊奉讃会創立、という本会発足以来の画期的大事業を、立案企劃し専ら前年度を準備年間として、鋭意根廻し工作をすすめて来た当面の責任者が、ここで新顔の者に引継がせて退会してしまふのは極めて無責任ではないか、特段、選任せざる理由が無いものなら、是非、現執行部全員は留任して、この奉讃会発足を全會員の信任に依って無事に円成完遂せしめてほしい」という要旨の強い発言がありましたので、駄馬に鞭打って再び三度び、一途に「横浜市積尊奉讃会造りをモットー」として「擗げて要職を汚させていただく」と相成りました次第でございます。願くば會員諸大徳方のご理解

あるご協賛と、本来仏教徒として積尊未孫としての一宗一派を越えた、脱宗派的信徒として大処高処の立場から、ご支援をいただだけますよう切にお願い申上げる次第であります。

第六回定期総会終る

況のうちににおがれているかを、毎日の情報下で肌身に感じられるのであります。今仏教は何を教える様として居るのか? とさえ自分に深く求めるのであります。今こそ出家と在家・僧俗一体・同心同行して、原始四衆僧伽の精神原点に戻って和合衆たる僧伽形成を必要とする時機はないと存するのであります。

新体制となつて三期目を迎え発展が期待される第六回定期総会が去る四月十九日午後一時より中区大平町九六西有寺の本会事務所において開かれ、積尊奉讃会設立等を含む各種案件が審議されれば原案通り承認された。注目の役員改選は奉讃会設立という時期に当たったため全員留任となつた。また奉讃会の準備委員等は三役に一任となり平穩裡に閉会した。

立という新事業に対し旧に倍する協力と支援を賜りたいとの会長挨拶があり、乙川名誉会長(代理)、貝山県仏会長、小崎県仏副会長、本間県仏青理事長等の来賓の祝辞がのべられ、滝田東潤師を議長に北見定賢師を副議長に選出して議事に入った。昭和五十三年度事業報告、同決算、会計監査報告を了承し、昭和五十四年度事業計画、同予算を承認、佐藤墓地対策委員長、友繁税務研究委員長の各報告を了承、役員任期満了に伴う選挙では、会長志村慎吾師、副会長福永隆昭師、横山敏明師、会計長福正城師、監査長鷹巣道孝師、赫多正巴師、墓地専門委員長佐藤寿広

「時機相應の仏教」とか「二十一世紀の僧伽形成」とか、はやくから叫ばれておるのですが、昨今は人類が地球社会の上で、未だかつて経験したことのない新しい状況

をいいただきとう存じます。幸いにも、準備体制も漸く整いました事務局開設も成り、既に故内山岩太郎神奈川県知事のご提唱による頃から、積尊奉讃会活動を続けて参つております市内数区(金沢区、保土ケ谷区、鶴見区内)の積尊奉讃会會員の方々は、今回の全市大結集による全市運動への大きな期待を寄せられると閃開し誠に感激に堪えず、一層の挺身を期しております。

第三次執行部を担当するに当り早速当面する事業への心構えを延べさせていただきます就任のご挨拶といたします。

師、税務研究委員長友繁禪弘師を再任、乙川名誉会長、小沢福門、柴田参吾、玄野専務理事の人事を承認し、福永副会長が閉会のことばをのべて総会を閉じた。

今次総会では積尊奉讃会の機構と凡その予定が承認されると共に振替口座の新設、行事等の連絡の密度を高めるようにとの要望等が出され活気を呈した。

円覚寺住職 宗務総長に
 久保山円覚寺 横井邦一禪師は、今般臨済宗円覚寺派重役職改選に伴い、大本山円覚寺宗務総長に選出され、今春来一派宗務総長として宗局を組閣担当し宗務をしておられます。

茲に賀意を表しご健斗を祈念致します。

第四回 釈尊涅槃会

緑の丘 弘明寺観音に集う

横浜駅から、京浜急行で西へ六、七分、トンネルをくぐって緑の丘の中に弘明寺がある。

駅からゆつくり歩いて二、三分のところに古めかしい寺がある。

そこが本日涅槃会を催す弘明寺観音である。境内に入ると大木が茂がり静かさを保っている。本堂や庫裏は、そうとう年代もので、寺の歴史をものがたっている。

正午すぎ、早くも会場をおとずれる善男善女……。

午後一時には、本堂の鐘の音が響き渡り、堂内には香々しいお焼香の香り、志村仏教連合会長の導師のもと三十名余りの僧侶によって涅槃会法要は、厳肅に営まれた。

御本尊の釈迦涅槃図は、県立博物館の御好意により秘蔵のものを借用したが、実に素晴らしいもので、法要に荘厳さを加えた。

午後二時庫裏大広間に於て、古屋照子女士による講演「念ずれば花開く」が約一時間余り催され、そのお話は実に静かで解りやすく、女史は、ご自分の体験と信仰をもとに釈尊の偉大さ、尊さを中心に話され今日この涅槃会には実にふさわしい講演をなされた。

会場の善男善女も、くい入るよううに耳をかたむけ、感嘆して思わず胸をなぞおろす者さえいた。

午後三時半過ぎ、この素晴らし

い講演をそれぞれ胸にだき、お香のたなびく弘明寺を後にして、それぞれ帰路についた。

市仏連では、この素晴らしい涅槃会に一人でも多く皆様方の参加を希望しております。

記念講演

「念ずれば花開く」

古屋照子

本日は弘明寺さんに招かれて喜ばしく思います。涅槃会という事で先づ「西行法師」からお話を申し上げましょう。

西行法師は「願くば、花のもとにて春しなん、そのきさらぎのもち月」と詩っておりますが、「そのきさらぎのもち月」とは正に、二月十五日お釈迦さまの御入滅の日をさしております。



くなる事を願っておりますが、建久元年二月十六日に入滅された。生死を共にすることは、なかなか出来るものではありませんが、法師はほとんど目をうつらすことなく亡くなっております。「念ずれば花開く」とはこのようなことだと思えます。

涅槃とはむづかしい言葉ですが本来は「風が火が吹き消されてしまふ」という意味です。私達の命は、大きくそして小さく燃え続けたりしますが、いわゆる「無常の風」に吹き消されてしまふ、これが死であります。私達は「涅槃」という言葉は使いたしません、釈尊は偉大な人であったため涅槃と申し御威徳を慕うのであります。

お釈迦さまは、「自分の死んだ後は自らを燈火とし自らを抛り所とせよ」と申されております。他のものではなく自分を抛り所とせよという事は、信仰は自分自らを信仰せよ……という事だと思えます。私は自分の胸三寸離れた所には無いという事でありませぬ。

ならば、私も観音さま、あなたも観音さまという事になります。しかし私は、「菩薩・観音さま」は自分の向うにあって、それを礼拝することによって「ありがた

ある、確かなものがあると思えます。

お釈迦さまは、三十五才でお悟りを開かれ八十才で御入滅なされるまで四十五年間人々をお救い下されましたが、死が近づくと「沙羅双樹」の林の中に寝床を用意させ、北を枕にして、「ご自分の故郷を示している」右を下にし、お顔を西にむけ（日の沈む方向を示している）のですが、これは全ては静止する、即ち安息の方法なのであります。

本日の涅槃図を見てもまわりの者は悲しんでいるのに、お釈迦さまは安らかなお顔をしておられます。まさに仏陀のお顔でありほほえみすらうかがえます。

インドでは、お釈迦さまが亡くなられてから百年間は、釈尊の絵や仏像を禁止されその席は「空」でありました。それは、お釈迦さまがあまりに偉大であったからであります。お釈迦さまは、死後金棺に入れられ火葬になりましたが困った事に死後の問題について何も語られておりません。

「靈魂」は存在するか、如来はどうなるのかという事です。

釈尊の入滅後五百年程して大乘仏教が生まれました。それによると生前の釈尊は仮の仏陀で、入滅後の釈尊が本当の仏陀であると説いております。

そこで私は、私達の肉体は「薪」

であり燃えている火は、その人の精神であると思えます。

よって肉体がなくなれば精神もなくなりませぬ。しかし、お釈迦さまの火は偉大なため、その火が次の薪に燃え移り次から次へと燃え続け今日に生きているのです。

ですから、御本尊さまにお詣りすることは大変大切な事でありませぬ。この目に見えないもの、それが信仰であり、ありがたいものであり大切なものであります。

現代は、物が豊かな時代であります。物が豊かにな時代であります。手を手を握せて「南無観世音」と申せば、そこへ観音さまがおいでになるのであります。こうして「念じれば」その観音さまのお力が自分に乗り移って下さるのであります。

こうしてみますと先程申し上げましたように「念じた事は必ずかなえられる」即ち「念ずれば花開く」という事でありませぬ。

これを持ちまして私のお話を終らせていただきます。



昭和53年度収支決算書

総括表	歳入金	1,004,359円
	歳出金	896,600円
	歳差引額	107,759円

(自昭和53年4月1日 至昭和54年3月31日)

昭和54年度歳入歳出予算(案)

総括表	歳入金	804,759円
	歳出金	804,759円
	歳差引	△円

(自昭和54年4月1日 至昭和55年3月31日)

収入の部			
科 目	予算額	決算額	増 減△
① 会費収入	413,000	413,000	0
1 会費	413,000	413,000	0
鶴見区	37,000	37,000	0
神奈川区	30,000	30,000	0
港北地区	57,000	57,000	0
緑西地区	40,000	40,000	0
西中地区	28,000	28,000	0
保土ヶ谷・旭区	23,000	23,000	0
南港南地区	28,000	28,000	0
磯子区	57,000	57,000	0
磯子区	19,000	19,000	0
磯子区	19,000	19,000	0
磯子区	26,000	26,000	0
磯子区	60,000	60,000	0
磯子区	60,000	60,000	0
磯子区	8,000	8,000	0
② 雑部金	50,000	180,600	130,600
1 雑入金	50,000	42,000	△ 8,000
2 寄附金及繰入金	0	138,600	138,600
③ 過年度収入金	0	0	0
1 会費	0	0	0
④ 前年度繰越金	410,759	410,759	0
1 前年度繰越金	410,759	410,759	0
収入合計	873,759	1,004,359	130,600

歳入の部			
科 目	予算額	前年度予算額	差引増減△
① 会費収入	413,000	413,000	0
1 会費	413,000	413,000	0
鶴見区	37,000	37,000	0
神奈川区	30,000	30,000	0
港北地区	57,000	57,000	0
緑西地区	40,000	40,000	0
西中地区	28,000	28,000	0
保土ヶ谷・旭区	23,000	23,000	0
南港南地区	28,000	28,000	0
磯子区	57,000	57,000	0
磯子区	19,000	19,000	0
磯子区	19,000	19,000	0
磯子区	26,000	26,000	0
磯子区	60,000	60,000	0
磯子区	60,000	60,000	0
磯子区	8,000	8,000	0
② 雑部金	284,000	50,000	234,000
1 雑入金	50,000	50,000	0
2 寄附金及繰入金	234,000	0	234,000
③ 過年度収入金	0	0	0
1 会費収入	0	0	0
④ 前年度繰越金	107,759	410,759	△ 303,000
1 前年度繰入金	107,759		
合計	804,759	873,759	△ 69,000

支出の部			
科 目	予算額	決算額	△増 減
① 総務費	200,000	104,200	95,800
1 事務所費	50,000	50,000	0
2 渉外費	50,000	0	50,000
3 通信交通費	100,000	54,200	45,800
② 需要費	150,000	110,000	40,000
1 会議費	100,000	70,000	30,000
2 慶弔費	50,000	40,000	10,000
③ 事業費	350,000	608,400	△ 258,400
1 税務墓地委員会費	100,000	0	100,000
2 涅槃法要費	100,000	118,600	△ 18,600
3 会報発刊費	100,000	134,000	△ 34,000
4 奉議会創立準備費	50,000	355,800	△ 305,800
④ 助成金負担金	100,000	50,000	50,000
1 助成金	75,000	40,000	35,000
2 負担金	25,000	10,000	15,000
⑤ 雑支出金	21,000	24,000	△ 3,000
1 過年度支出金	20,000	24,000	△ 4,000
2 雑支出金	1,000	0	1,000
⑥ 予備費	52,759	0	52,759
1 予備費	52,759	0	52,759
支出合計	873,759	896,600	22,841
次年度繰越金		107,759	

歳出の部			
科 目	予算額	前年度予算額	差引増減△
① 総務費	180,000	200,000	△ 20,000
1 事務所費	50,000	50,000	0
2 事務渉外費	30,000	50,000	20,000
3 通信交通費	100,000	100,000	0
② 需要費	140,000	150,000	△ 10,000
1 会議費	100,000	100,000	0
2 慶弔費	40,000	50,000	△ 10,000
③ 事業費	360,000	350,000	10,000
1 税務墓地委員会費	30,000	100,000	△ 70,000
2 涅槃法要費	100,000	100,000	0
3 仏教講座開講費	100,000	0	100,000
4 会報発刊費	130,000	100,000	30,000
5 奉議会創立準備費	0	50,000	△ 50,000
④ 助成金負担金	80,000	100,000	△ 20,000
1 助成金	65,000	75,000	△ 10,000
2 負担金	15,000	25,000	△ 10,000
⑤ 雑支出金	11,000	21,000	△ 10,000
1 過年度支出金	10,000	20,000	△ 10,000
2 雑支出金	1,000	1,000	0
⑥ 予備費	33,759	52,759	△ 19,000
1 予備費	33,759	52,759	△ 19,000
合計	804,759	873,759	△ 69,000

昭和54年4月6日

上記のとおり収支決算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 志村 慎吾

昭和54年4月19日

上記の通り歳入歳出の予算案を提出いたします。

横浜市仏教連合会 会長 志村 慎吾

